

令和6年度第1回農林水産技術会議評価専門委員会議事要旨

場 所：農林水産省農林水産技術会議事務局委員室（Web 会議併用）

日 時：令和6年8月7日（水）13:00～17:00

出席者：

（専門委員）※五十音順、敬称略

犬伏 和之	東京農業大学応用生物科学部	教授
大黒 俊哉	国立大学法人東京大学大学院農学生命科学研究科	教授
岡崎 恵美子	国立大学法人東京海洋大学	客員教授
佐藤 拓郎	株式会社アグリーンハート	代表取締役
清水 ほづみ	清水牧場	
東海林 園子	オイシックス・ラ・大地株式会社	経営企画本部グリーン戦略室 室長
外村 玲子	中村合同特許法律事務所	弁護士
西野 和美	国立大学法人一橋大学大学院経営管理研究科	教授
黛 佐予	有限会社妙義ナバファーム	取締役
水落 隆司	三菱電機株式会社	執行役員 開発本部

（事務局）

農林水産技術会議事務局 東野研究総務官
研究企画課 羽子田課長、大淵研究調整官、松田課長補佐

議 事：

1. 研究制度の事前評価

- （1）みどりの食料システム戦略実現技術開発・社会実装促進事業のうち戦略的研究開発知財マネジメント強化事業（拡充）
- （2）スマート農業技術活用促進総合対策のうちスマート農業普及のための環境整備（拡充）
- （3）安全な農畜水産物安定供給のための包括的レギュラトリーサイエンス研究推進事業（拡充）

2. 委託プロジェクト研究課題の事前評価

- （1）みどりの食料システム戦略実現技術開発・社会実装促進事業のうち環境負荷低減対策研究（新規）
- （2）みどりの食料システム戦略実現技術開発・社会実装促進事業のうち気候変動適応研究（新規）
- （3）みどりの食料システム戦略実現技術開発・社会実装促進事業のうち競争力強化研究（拡充）
- （4）みどりの食料システム戦略実現技術開発・社会実装促進事業のうち革新的技術創出研究（新規）

要 旨：

(主な意見)

1. 研究制度の事前評価

(1) みどりの食料システム戦略実現技術開発・社会実装促進事業のうち戦略的研究開発知財マネジメント強化事業(拡充)

- ・我が国の農林水産業・食品産業において、ブランド活用による新たな価値の創出や市場開拓への取組に対するニーズが高まる中、知財マネジメントの強化に関する研究の重要性は高い。
- ・アウトプット目標やアウトカム目標を達成するためにも、フォーマットの統一を含めたデータ整備・蓄積・管理等、ネットワークの基盤整備が必要であり、蓄積したデータの効果的・効率的な活用につながるような研究推進を期待したい。

(2) スマート農業技術活用促進総合対策のうちスマート農業普及のための環境整備(拡充)

- ・農林水産分野における衛星データの利活用推進を図るとともに、農林水産業の現場ニーズが高く、普及可能性が高い衛星活用技術の試験的な導入を支援する重要な課題である。
- ・衛星データの入手や活用は民間では着手しにくい側面があり、また同データを農林水産業に大規模に活用するためには、国の関与は必要である。
- ・大規模農家のみならず小規模農家を含めた多様なユーザーが成果を享受できるような普及の仕組みを検討するとともに、衛星データの様々な活用方法を検証し、その情報をユーザーに分かりやすく伝える取組を進めていただきたい。

(3) 安全な農畜水産物安定供給のための包括的レギュラトリーサイエンス研究推進事業(拡充)

- ・ヒ素等の有害化学物質は、国民が毎日の食生活で摂取する米等が関連し、国民の健康に影響が大きいことから、研究の意義は高い。
- ・食料安全基本法等の法律や上位計画に位置づけられた施策を適切に実施するために国が推進する必要性は高い。
- ・今後着実に実施するとともに、研究終了後の継続的なフォローアップの実施や、状況及び優先度の変化に応じた柔軟な制度運用等を期待する。

2. 委託プロジェクト研究課題の事前評価

(1) みどりの食料システム戦略実現技術開発・社会実装促進事業のうち環境負荷低減対策研究(新規)

- ・いずれの課題も「みどりの食料システム戦略」の実現に向けた課題であり、ニーズ、科学的・技術的意義はいずれも明確であり、重要性は高い。
- ・アウトプットが可能な限り数値化されているとともに、アウトカム目標及びロードマップはいずれも明確である。
- ・農業分野における国産バイオマスの活用による脱炭素資材の開発においては、耐

用性と低コスト化の両立を目指して進めていただきたい。

- ・木質資材は菌床等としても重要な資源であることから、木質バイオマスの活用に当たっては、多用途に用いられるバイオマス資源のバランスの取れた利用という観点にも留意していただきたい。
- ・藻類を活用した魚を利用しない養殖用の配合飼料への転換の研究課題に取り組むこととされているが、畜産飼料を通じた「みどりの食料システム戦略」への貢献など幅広い展開を期待する。

(2) みどりの食料システム戦略実現技術開発・社会実装促進事業のうち気候変動適応研究（新規）

- ・いずれの課題も今後深刻化が見込まれる気候変動への的確な対応・適応に資する課題であり、ニーズ、科学的・技術的意義はいずれも明確であり、重要性は高い。
- ・気候変動適応に関する研究は公共性が高い喫緊の課題であり、国が先導する必要性は明確である。
- ・アウトプット、アウトカムとも定量的に示されており、アウトカム目標とその実現に向けた研究成果の普及・実用化の道筋も明確である。
- ・水資源の予測の研究課題において、水資源は農業以外にも資源として重要な位置付けであるという視点に留意しながら研究を進めていただきたい。
- ・本研究を進めるに当たっては、現場への普及を考慮した構成機関、連携体制を明確にして実施する必要がある。

(3) みどりの食料システム戦略実現技術開発・社会実装促進事業のうち競争力強化研究（拡充）

- ・海外の植物遺伝資源の確保については、食料の安定供給あるいは国際競争力強化の観点から非常に重要な課題であり、研究の重要性は非常に高い。
- ・海外の植物遺伝資源の収集・保存・提供では、相手国との資源共有等の連携が非常に重要である。
- ・類似のプロジェクトを進めている関連機関との連携・協力も進めていただきたい。
- ・遺伝資源の探索、収集、アウトカム目標が令和21年度となっており、追跡調査等で途中経過が分かるようにすることが必要である。

(4) みどりの食料システム戦略実現技術開発・社会実装促進事業のうち革新的技術創出研究（新規）

- ・国民病と言われる「スギ花粉症」の治療法開発に向けた重要な課題であり、研究の重要性は高い。
- ・農学分野と医学分野、厚生労働省等関係機関との連携が必要であり、国として推進すべき課題である。
- ・限られた予算の中で、達成すべき目標を明確化し、将来的な成果の受け手として共有した上で研究をスタートさせていただきたい。